

県南 広域振興局長

提出者 リコーインダストリアルソリューションズ株式会社 花巻事業所

住所 〒025-0394 岩手県花巻市大畑10-109

氏名 事業所長 竹本 浩志

（法人にあつては、その名称及び代表者の氏名）

地球温暖化対策実施状況届出書

県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例第83条の規定により、地球温暖化対策の実施状況について、次のとおり届け出ます。

1. 事業者に関する事項

主たる工場又は事業場の名称	リコーインダストリアルソリューションズ株式会社 花巻事業所	*整理番号	
主たる工場又は事業場の所在地	岩手県花巻市大畑10-109	*受理年月日	年 月 日
エネルギー使用量	3,865 kl	*施設番号	
自動車の使用台数	台		
二酸化炭素の排出の状況	別紙のとおり。		
二酸化炭素の排出の抑制のための措置状況			
その他の地球温暖化の対策の実施状況			
変更年月日及び理由	年 月 日		
エネルギーの使用の合理化等に関する法律第19条第1項に定める連鎖化事業者			

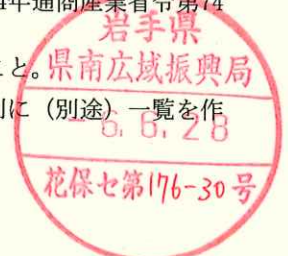
2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧

工場等の名称	工場等の所在地	エネルギーの使用量
リコーインダストリアルソリューションズ株式会社 花巻事業所	岩手県花巻市大畑10-109	3,865 kl
		kl
		kl

備考1 *印の欄には、記載しないこと。

- エネルギー使用量の欄は県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例施行規則第39条第1項に規定する工場又は事業場に該当する場合に、自動車の使用台数の欄は同条第2項に該当する場合に記載すること。
- エネルギー使用量については、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則（昭和54年通商産業省令第74号）第4条の方法により原油の数量へ換算した量を記載すること。
- 変更計画書の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
2. 県内に設置している工場又は事業所並びに店舗の一覧の記載欄が足りない場合には、別に（別途）一覧を作成の上、添付してください。

(A4)



別紙 その1 (工場又は事業者用)

1 温室効果ガスの排出状況

(1) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量

エネルギーの種類		(2023) 年度						E=B-D	二酸化炭素排出 量 (t-CO ₂)	前年度二酸化炭 素排出 (t-CO ₂)	前年度二酸化炭 素排出 (t-CO ₂)	
		エネルギーの使用量			販売したエネルギー使用量							
		数量 A	単位 B	熱量(GJ) C	数量 D	単位 E	熱量(GJ) F					
化石燃料	原油(コンデンセートを除く)		kL			kL						
	原油のうちコンデンセート(NGL)		kL			kL						
	揮発油(ガソリン)	1.91	kL	64		kL		64	-4	5	0	
	ナフサ		kL			kL						
	ジェット燃料		kL			kL						
	灯油		kL			kL						
	軽油		kL			kL						
	A重油	782.06	kL	30,420		kL		30,420	2,153	2,301	-148	
	B・C重油		kL			kL						
	石油アスファルト		t			t						
	石油コークス		t			t						
	石油ガス	液化石油ガス(LPG)	8.06	t	404		t	404	24	61	-27	
		石油系炭化水素ガス		千m ³			千m ³					
	可燃性天然ガス	液化天然ガス(LNG)		t			t					
		その他可燃性天然ガス		千m ³			千m ³					
	石炭	原料炭	輸入原料炭		t		t					
			コークス用原料炭		t		t					
			吹込用原料炭		t		t					
			輸入一般炭		t		t					
		一般炭	国産一般炭		t		t					
輸入無煙炭				t		t						
石炭コークス			t			t						
コールター			t			t						
コークス炉ガス			千m ³			千m ³						
高炉ガス			千m ³			千m ³						
発電用高炉ガス		千m ³			千m ³							
転炉ガス		千m ³			千m ³							
その他の燃料	都市ガス		千m ³			千m ³						
	()											
	()											
非化石燃料	黒炭		t			t						
	木材		t			t						
	木質廃材		t			t						
	バイオエタノール		kL			kL						
	バイオディーゼル		kL			kL						
	バイオガス		千m ³			千m ³						
	その他バイオマス		t			t						
	RDF		t			GJ/t						
	RPF		t			GJ/t						
	廃タイヤ		t			GJ/t						
	廃プラスチック(一般廃棄物)		t			GJ/t						
	廃プラスチック(産業廃棄物)		t			GJ/t						
	廃油		kL			GJ/kL						
	廃棄物ガス		千m ³			千m ³						
	混合廃材		t			t						
	水素		t			t						
	アンモニア		t			t						
	その他の燃料()											
	小 計 ①								30,887	2,181	2,356	-175
熱	産業用蒸気		GJ			GJ						
	産業用以外の蒸気		GJ			GJ						
	温水		GJ			GJ						
	冷水		GJ			GJ						
	地熱		GJ			GJ						
	温泉熱		GJ			GJ						
	太陽熱		GJ			GJ						
	雪氷熱		GJ			GJ						
	小 計 ②											
	電気事業者①	13,764.00	千kWh	118,921		千kWh		118,921	6,565	9,449	-2,884	
電気事業者② 施設敷地内での場合使用		千kWh			千kWh							
自己託送(非燃料由来を除く)		千kWh			千kWh							
自家発電	太陽光		千kWh			千kWh						
	水力		千kWh			千kWh						
	風力		千kWh			千kWh						
	その他		千kWh			千kWh						
小 計 ③								118,921	6,565	9,449	-2,884	
合 計 ①+②+③								149,808	8,747	11,805	-3,059	

(2) 原油換算エネルギー使用量=(1)のエネルギー合計使用量×0.0258)

原油換算エネルギー使用量	3,865	kL
--------------	-------	----

(3) 温室効果ガスの総排出量

区 分		温室効果ガスの排出量
二酸化炭素の排出量	エネルギーの効用に伴って発生する二酸化炭素	8,747 t-CO ₂
	上記以外の二酸化炭素	t-CO ₂
メタンの排出量		t-CO ₂
一酸化二窒素の排出量		t-CO ₂
ハイドロフルオロカーボンの排出量		t-CO ₂
パーフルオロカーボンの排出量		t-CO ₂
六ふっ化硫黄の排出量		t-CO ₂
三ふっ化窒素の排出量		t-CO ₂
合 計		8,747 t-CO ₂

備考1 原油換算量は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則(昭和54年通商産業省令第74号)第4条の方法により換算してください。

2 二酸化炭素排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(平成11年政令第143号)の第3条の規定により算定してください。

3 エネルギーの使用量の欄には、県内に設置している工場又は事業所並びに店舗におけるエネルギー使用量の合計を記載してください。

別紙 その2

1 地球温暖化対策計画の達成状況

【目標値の達成状況(進捗状況)】

<2021年度(計画1年目)>

CO2排出量の目標値9,860t以下に対し、実績8,048tと目標達成。
(CO2排出実績8,048tは電力供給会社から購入した再エネメニューの電気分を除いた数値)

<2022年度(計画2年目)>

CO2排出量の目標値8,917t以下に対し、実績8,888tと目標達成。
2022年度は2021年度に行った再エネメニュー電気の購入を中止した為、前年度よりCO2排出量が増加。
('23年5月から再エネメニュー購入を中止)

<2023年度(計画3年目)>

CO2排出量の目標値8,610t以下に対し、実績8,445tと目標達成。

※CO2排出係数は計画策定時の係数を使用。

【具体的な取組状況】

<2021年度の主な実施内容概要(詳細は昨年度提出済みの為割愛)>

- ①再生可能エネルギーの購入(CO2削減量:1043. 2t/年)
- ②生産設備の集約による電力量の削減(CO2削減量:83. 8t/年)
- ③空調設備の運用変更、改造による空調エネルギー削減(3件実施、CO2削減量:58. 6t/年)

<2022年度の主な実施内容詳細>

- ①生産設備の待機電力削減(CO2削減量:233. 8t/年)
 - ・非稼働時に待機状態となっている設備の立下げと装置ブレーカーのOFFを実施。
 - ・メイン装置の立下げが不可能な装置では付帯設備の立下げを実施。
 - ②空調温湿度の見直し(CO2削減量:60. 0t/年)
 - ・クリーンルームの冬季の設定温湿度を見直して、暖房エネルギーと加湿エネルギーを削減
 - ③空調外気取入れ量の調整(CO2削減量:54. 6t/年)
 - ・クリーンルームから空調機に戻る還気量を増加させることで外気を取入れ量を減らし夏と冬の空調エネルギーを削減。
 - ④空調稼働時間の見直し(CO2削減量:20. 7t/年)
 - ・クリーンルームで土日に空調を行っているエリアを送風ファンだけの稼働に変更し空調エネルギーを削減。
- ※CO2排出係数はリコーグループの係数を使用して算出

<2023年度の主な実施内容詳細>

- ①空調容積削減による空調エネルギー削減(CO2削減量:33. 3t/年)
 - ・非生産エリアのカーテン間仕切り実施と非生産エリアの空調停止。
 - ・生産エリア集約による空調エリア削減。
- ②空調稼働時間削減(CO2削減量:56. 7t/年)
 - ・土日空調間欠運転実施と生産稼働に合わせた空調稼働へ変更(生産非稼働時の空調間欠)
- ③インフラ要求使用の最適化によるインフラエネルギー削減(CO2削減量:158. 6t/年)
 - ・クリーン度維持に必要な最低風量への低減
 - ・複数エリアのエア要求値の見直し・統一とコンプレッサー設定圧の統一による台数削減
- ④設備更新によるエネルギー効率向上(CO2削減量:8. 8t/年)
 - ・パッケージ空調更新の更新時期合わせた燃料転換(EHP化)と室内機細分化
- ⑤生産QCD改善による設備台数削減(CO2削減量:63. 4t/年)
 - ・洗浄方法見直しによる洗浄工程廃止と設備停止

備考 計画書に記載した各種取組の進捗・達成状況について記載してください

2 その他の地球温暖化の対策の実施状況

- ・金属廃棄物の有価売却による有価物化による廃棄物の削減。(金属再利用)
- ・長期休暇に合わせて事業所外灯の一部消灯の実施。
- ・毎週水曜日と金曜日を「フレッシュアップデー(定時退社促進日)」と定めて定時退社の推進。